愛光NEWS
2025年7月

２０２５（令和７）年８月３１日発行
（編集）愛光本部
（TEL）０４３－４８４－６３９１
（HP）https://www.rc-aikoh.or.jp/

今月より、1 年間の長期研修「5S 研修　改善眼プログラム」が開始されました。本研修は、職場環境の基本である 5S（整理・整頓・清掃・清潔・躾）の徹底を通じて、業務の中に潜むムリ・ムダ・ムラを発見し、主体的に改善する「改善眼」を養うことを目的としています。単なる美化活動にとどまらず、業務効率化や安全性向上、問題解決力の向上、そして法人内での改善文化の醸成を目指す取り組みです。今回は、本部・ルミエール・リホープ・めいわ（根郷通所含む）が対象となり、各部署から選出されたメンバーがチームとして参加します。今後 1 年間にわたり、座学と各職場での実践を繰り返しながら、具体的な改善活動を進めていきます。

□事業経過など（2025.7.1～）

3	火	業務執行会議/秋まつり実行委員会
4	水	本部スタッフ会議/5S 研修/広報委員会/地域食堂委員会
5	木	メンター委員会
7	土	理事会
10	火	感染症対策･衛生管理委員会/防災委員会/避難訓練
12	木	中途採用者交流会
16	月	佐倉圏域事業部実績会議
18	水	地域食堂ともいき/感染症研修/栄養改善委員会
20	金	ボランティア委員会
22	日	評議員会/評議員選任･解任委員会/理事会
24	火	コンプライアンス委員会/本部実績会議
25	水	障害者実績会議/地域福祉事業部実績会議/財務ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ/後援会運営会議
26	木	高齢者福祉事業部実績会議/研修委員会

■月報から

□　ホーム別懇談会　（ルミエール）

２０日の家族会ではホーム別懇談会が行われた。第三者委員からの報告を受けて施設からご家族、後見人に返答をする場であることと、普段利用者がどのような生活を送っているかを報告する場でもある。今回はご家族に対して日中活動で何をしているか自立課題を実際にテーブルの上に出して実践してもらった。利用者特性を考慮した自立課題を見てご家族からはこうしたらよいのではとアイデアを出してくださった。また、職員全員がマスクをしていることに対して違和感を覚える等、コロナウイルス対応についてご意見をいただいた。ルミエールの家族会は毎月１５家族くらいが参加してくださるが、ご家族の高齢化によって後見人業務が継続できなくなる不安を持った人が増え、第三者後見人に移行するご家族もいることを説明し施設としても不安な方は相談を受けることを話し終了した。　（ルミエール課長　原　宏之）

□ 今年も暑い夏が来た　（めいわ）

今年は例年にも増して猛暑の日々が続いている。そんな暑さにも負けずめいわのみなさん元気に過ごされています。とある週末急遽中庭プールで水遊び。職員も巻き込み大騒ぎ。暑さも吹き飛ぶひと時でした。7 月26 日は山王夏まつりにめいわ太鼓班の出演依頼があり暑さの中でのステージとなりました。日頃の練習の成果を発揮し、堂々とした演奏で地域の皆さんから大きな拍手をいただきました。演奏後は、出店でおいしいものを食べたり、お祭りの雰囲気を楽しんだりと、皆さん笑顔いっぱいの夏のひとときとなりました。 地域の行事に参加することで、利用者の皆さんにとっても良い刺激となり、自信にもつながったように感じます。今後もこうした地域とのつながりを大切にしていきたい。　（めいわ施設長　片野　明美）

□　ガイドメイクで 美しく！　（リホープ）

ガイドメイクは、視覚に障害がある方でも自身の手指を顔に当ててガイドラインにし、それに沿ってスキンケアからポイントメイクアップまでを行うお化粧法。24 日によもぎの園利用者1 名とリホープ利用者5 名が資生堂のセミナーに参加した。おしゃれや身だしなみを通じた自己表現や自信の向上、人と会う機会や外出意欲の向上、会話や交流の場づくり（支援者・参加者同士のコミュニケーションが広がること）もその効果の一つ。会話も弾み、多くの笑顔があふれた。　（リホープ課長　稲垣　直子）

□ 急な依頼にも対応します　（佐倉市よもぎの園）

業者から急遽、大口の作業依頼を受けた。これまで取り組んでいた商品であったが、請負量と納期の間隔が短く滞りなく作業を進めることに難儀した。この作業はよもぎの園にほぼ任されており、信頼されているからこその依頼でもある。作業を請け負うときには業者との信頼関係がとても重要である。この信頼関係は小さな積み重ねがあってようやく生まれてくる。取引当初は相手側の求めている水準がわからなかったり、こちら側に求められている精度も不明確であったりとお互いに確認し合いながら着地点を見つけていく。それを経てようやくお互いのことが分かりあえてくる。ただし、気を付けていかなければいけないことは、信頼を勝ち取ることには時間がかかるが、その逆は一瞬

で訪れてしまうため“よもぎ品質”を常に意識しながら取り組む必要がある。新しい職員も増えてきたのでこれまでの取り組みを共有していきたい。

（佐倉市よもぎの園　主任　近藤　真一）

□ 公平な制度構築が必要（かけはし）

2024 年度「障害年金」を新規で請求しても、支給が認められなかった割合（=非該当の割合）が13.0%に達し(過去最高だった令和元年度12.4%とおおむね同水準)、また精神障害による申請では不支給率が前年比で約2 倍に増加したとの報道がありました。いわゆる「障害年金の不支給問題」です。かけはしが担当しているケースはすでに年金を受給されている方が多く、申請の段階から携わるケースも少なく、「不支給」だったという話も耳にすることは無い状況である。障害年金は2 階建て構造(障害基礎年金と障害厚生年金)で、加入歴や等級により受給可否が異なります。また申請には要件を満たす必要があり、加算制度なども含めて正しい理解が重要で、必要な書類も多く内容も複雑である。佐倉市でも社会保険労務士による無料相談室を毎月1 回開催しているとのことなので、今後申請に関わるケースがあった際には利用したい。困っている方の金銭的余裕が確保されることで精神的な安定も図れ、少しでも安心した生活を送れることに繋がる。必要な方に必要な支援が行き届くよう、我々ができる支援が何であるかを改めて考え、取り組みを行っていきたい。　（かけはし　管理者　戸室　輝大）

□　県社協広報誌に掲載されます（ワークショップかぶらぎ）

千葉県社会福祉協議会より、あったかパントリーの取り組みについて取材したいとの申し出が佐倉社協経由であり、取材を受けた。7 月17 日、かぶらぎにインタビュアーとして千葉県社協のスタッフ2 名が来所。こちらは佐倉社協の担当者、あったか食堂ネットワーク役員、かぶらぎの利用者及びスタッフで対応じた。インタビューの内容は、事業開発の経緯から、開始までの苦労や重視したこと、食堂側の感想や仕事として携わっているかぶらぎの利用者の感想や変化についてで、緊張しつつも、各々関わってきた人がそれに答えた。この内容は8 月発行の「福祉ちば205 号」に掲載予定とのことである。『支える側・支えられる側』という二者関係を超えた、福祉と地域、プラットフォームとしての社協の三者による『支え合い』の一つの形として、愛光の名前と共に広く県内に周知されればと思う。　（ワークショップかぶらぎ　主任　宮部　和樹）

□ 防災訓練、BCP 訓練　（ジョーの家）

防災訓練を実施した。夏場の暑い時期であったため、入居者の体調を考慮し「広域避難所（根郷小学校）」への移動は中止し、地震発生時の身の守り方、安否確認、サービス管理責任者への連絡といった項目について確認をした。入居者の方々の特性としてコミュニケーションが苦手な方が多いため、当事者間での安否確認時に声かけがスムーズに行えないこと、携帯電話の操作方法や連絡先が分からない（登録していたはずの連絡先が削除されていた）といった具体的な課題が見つかった。これらの課題に対して、個別での説明・対応を実施した。これからも、入居者が安心して日々を過ごせるよう、訓練や対策を継続していきたい。また、義務化されているBCP 訓練を含め、計4 回の訓練を計画的に進めていきたい。　（ジョーの家　髙橋　健）

□ 卒業後の進路先がない…（アシスト）

7/23（水）に印旛特別支援学校の相談会に参加した。この相談会は、希望する高等部在籍のご家庭に対して、各地域の相談支援事業所と障害福祉課職員が相談に乗る機会として、毎年夏休みに行われている。相談内容は卒業後の進路に関する相談が最も多く、近年生活介護事業所についての相談はとても多くなっている。実際に相談会前にも何件か事業所の情報がほしいと高等部のご家族から問い合わせもいただいていた。背景に生活介護自体資源が少ない為、どの事業所も定員一杯もしくは数名受けられるくらいの現状であり、ご家庭としては卒業後の受け入れに対しての不安が強いためと思われる。まずは見学をしてご本人に合うかどうか見てもらい、実習をしてみることをご家族には提案しているが、「必ずしも受け入れが出来るわけではないですよね」と苦笑いする親も多い。卒業後の進路がないという現状はないとは思っているが、このままどうなってしまうのかと相談の立場からしても不安になる。利用者のニーズと受け入れ状況のすり合わせなどを、学校側や行政、相談など含め、利用者やその家族が少しでも不安が軽減される様な取り組みを話し合うことが今こそ必要なのではないかと思っている。

（管理者　小平　和俊）

□ 特養にて新型コロナクラスター発生　　（はちす苑特養）

7/16(水)風の街より新型コロナの感染が確認されました。午前中に、声がれや鼻水が見られる3 名のご利用者に念のためと、抗原検査を行ったところ、3 名とも陽性となりました。その午後に風の街のご利用者 23 名全員と勤務職員の抗原検査を行ったところ、更にご利用者 7 名、職員 1 名の感染が判明しました。後に虹の街まで感染が広がりました。7/16 は、熱、声がれ等の症状が見られない方が 6 名おり、症状で確認することがとても難しい状況でした。花の街は、職員 1 名のみであったので、7/25 日解除。風の街は 7/28 日解除。虹の街は、8/4 解除となりました。陽性者の総数は、ご利用者 28 名、職員 11 名となりました。幸い重篤なご利用者はいませんでした。職員の感染者が増えたときは、早番から遅番までの連続した勤務となることも多く、大変な思いをしましたが、何とか乗り切ってくれました。頑張ってくれた職員に感謝です。

（はちす苑　苑長　安部　一義）

□ 南部ケアマネのつどい　（南部包括支援センター）

～セブンイレブン移動販売説明会＆包括支援センター事業の紹介～

南部圏域のケアマネジャーのつどい、「南部ケアマネのつどい」を実施した。テーマは「移動販売について」として、秋頃に開始予定のセブンイレブンの移動スーパーの説明会を開催した。そのほか、包括支援センターが行っている事業についてもケアマネジャーに説明をした。移動スーパーについては佐倉市内で様々な事業所が地域を回っているが、今回はセブンイレブンから開始する予定となった。個人宅も回ってくれるとの事なので、居宅のケアマネジャー向けにも説明会を開催できればと思い、セブンイレブン担当者からの説明を依頼した。ケアマネジャーからは、重い荷物を運ぶのが大変な場合はどこまで対応してもらえるか等、具体的な質問も挙がった。セブンイレブン担当者からは、「地域貢献をしたいと思っているので、買い物以外でもコンビニで対応可能なことは代理で対応するなど、出来る限りの相談には応じたい。買い物だけでなく利用者とお店の信頼関係も大切にしたいと思っている。」との話もあった。包括支援センターとし

ても、今後も各事業所と連携をしながら、地域の移動販売の活性化に取り組んでいきたい。　（南部地域包括支援センター管理者　森　由美子）

□「おばけやしき」 ～メリーさんの電話～ （南部児童センター）

今年も夏休み特別企画 「おばけやしき」 を開催した。数日前から問い合わせも多数あり、関心の高さがうかがえ、当日の来場者は２０５名だった。昨年の１６０名から大幅に増加した。当日はボランティアの高校生も参加し、受付や会場の整理などで活躍！楽しみに訪れた小学生の腰が抜けるほど驚くリアクションにお化け役の子どもたちも力が入っているようだった。終了後の「おつかれさま会」では、「楽しかった。」「来年もまたやりたい」との多くの声があった。また後日、お化け屋敷実行委員の保護者から「子どもがとても楽しかったと言っていて、児童センターでは家ではできない貴重な体験ができて、とてもありがたいです。来年も参加させたいです」という声があった。段取りに追われて大変なこともあったが、いつもながら子どもたちの未知なる力と笑顔が活力となっている。

（南部児童センター　吉田　知加子）

□ 猛暑の中の子どもたち　（学童保育所）

環境省の熱中症警戒アラートと室内の暑さ指数(WBGT)を計測する機器を使用し子どもたちを熱中症から守っている。また、光化学スモッグ注意報にも注意が必要である。水遊びですら夏の時期をずらすこととした。日差しからは守られる体育館だが、空調が無いのでコンスタントな利用はできない。学校内にある学童保育所では、この時期、学校の保守点検のため停電や断水もあり、開所場所を変更して運営する日がある。そんな、記録的な暑さだが子どもたちは元気に遊んでいる。元気にこたえるため、各学童で知恵を絞る。少しでも体を動かせる遊びはないかと考え、牛乳パックとスポンジでパックホッケーを始めた。机の上のスポンジを牛乳パックで弾き滑らせる簡単なゲームであるが、子どもたちは大興奮！毎日汗をかきながら勝負を楽しんでいる。夏休みはまだ始まったばかり、日々工夫して過ごしていきたい。（寺崎学童より）

スライム作りをした。高学年も多いので、色を混ぜたり、好みの固さにするにはどうしたらよいか研究しながら作っていた。この時期もってこいの、ひんやり感触である。（大崎台学童より）

大きな紙に描こう！！と、子どもたちと職員で相談しながらクレヨンと絵の具で仕上がった。絵の具で夜空を塗る時は、キレイに花火が見えるようにしたいから、少し青も混ぜる？とか、濃すぎるから水足して！と、子どもたちが職人のようだった。室内の壁に、本物の花火に負けないほど綺麗な打ち上げ花火が上がった。（弥富学童より）

高学年も多く、体を動かさずひと夏を過ごすなんて無理だ！と、二部屋あのうち一部屋を運動用に使用中である。危険をできるだけ排除して、普通のボールでなくタオルボールにして・・・など子どもと大人でルールを作りながらの日々である。少しでもエネルギーを開放してくれると良いと感じる。（第二根郷より）

夕方体育館の前は日陰になり、風の通りも良い。温度計を置いてみたら警戒レベル。「よし！いける！！」準備も何もないまま水でっぽうを片手に水遊びが始まった。職員も子どももびしょびしょ・・・着替えを気にしながらの大人、そんなことは関係ない子どもたち。行事としての水遊びは時期をずらしてと実施することとなったが、天気や気温などタイミングを見計らいながら、楽しくすごしていきたい。（第二寺崎学童より）

□ 「ラファエルの家」の職員 南部地域福祉センターへ（南部地域福祉センター）

7 月11 日、はちす苑と当センターのサロン事業、「サロン・ド・ともいき」は、第一興商のインストラクターによる、ＤＡＭ機（ビデオ映像による体操）を使用した音楽体操が行われた。当日は、愛光と深く交流のある、韓国の「ラファエルの家」の職員6名が当地域福祉センターに来所、施設の見学と、サロンの音楽体操、そして、地域の高齢者との交流会に参加された。映像と音楽に合わせた体操が多いため、ラファエルの家の職員も戸惑うことなく、楽しそうに体操をする姿が見られた。音楽体操の後には、ともいき利用者とラファエルの職員、ともいきボランティア、本部職員の交流会を行った。音楽体操の後、40 分ほど使って脳トレやゲーム、レクリエーションで楽しむが、今回は「ラファエルの家」の来所ということで、内容は「韓国と言えば・・・・」「ハングル語で自分の名前を書いてみよう」を企画した。「韓国と言えば何を思い出しますか」の問いには、ともいき利用者は、韓国料理や韓国ドラマなど、たくさんの話が出て、ラファエルの職員と共有することができた。また、ハングル文字一覧表50 音を使って、自分の名前をハングル文字で書いてみることに挑戦。50 音の一覧表を見ながら、各テーブルに座ったラファエルの職員に直接「生（なま）のハングル語」を教えてもらいながら、利用者も頑張って自分の名前を書いた。ハングル語で自分の名前を書くという機会はめったにないことだったので、この企画はたいへん盛り上がり、ボランティアも職員も夢中になってチャレンジしていた。時間も足りなく、予定の終了時間を過ぎても、ホワイトボードに自分の名前を書いていた。おそらく利用者は、自分の名前をハングル語で覚えて帰られたと思う。　　（南部地域福祉センター　主任　青山　秀人）